

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11		8	7	6	5	4	3	2	1		
																								松						
ひとりには広きソファよ松の内	赤と白ふゆのジオラマぬけてゆく	淑気しゆわしゆわ海豚戴冠してゐたり	冬の水人工島の銀イルカ	橋梁を渡る車がどんとと心臓に響く	既読つくまでを一月の噴水	マフラーが映るイルカの銀びかさ	待春やメタルバードは凜として	初夢はひしゃげたホテルで浮いて見る	ひと筋の航跡果てり恵方へと	子どもたち、笑顔で羽つく、ディストピア。	初列車人工島を胴斬りに	新年の新婦の羽根や港島	ポートピアホテル寒雲を進む船のごと	冬の雲の下ブルーベリーの糞を踏む	ひとひらの山茶花残る竹箒	北風の死角で踊る運転手	冬ざるる立て看板の文字見つむ	冬の空晴れて錆色匂ひ立つ	焼詣や社章の旗のだらりとす				鼻息でポートライナーくもらせて	冬の雲銀のイルカに反射する	ポートピアホテルの窓の冬茜	科学館科学の子らの着膨れて	ドラクエの王も席つく雑煮かな	客の来ぬブティックなれど淑気かな	春隣地球を担ぎ上ぐオブジェ	門松や神戸老舗のベルボーイ

		58	57	56	55	54	53	52		50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	
																			K		T									
		駐車場のバーは紅白大旦	淑気かな葉音がポテトチップスで	大橋は、凧糸のごとし、缶ビール。	潜水艦一艇わすれる早さ	初鴉神戸国際会議場	モノレールの柱の囃す初雀	長男の父いかのほり曳きまはす		冬曇レモン一片しほる牡蠣	コーヒーは、冷めるものかな、愛ランド。	新年の島に掲揚台数多	冬の手に包む蘇鉄や朱を秘めて	船一つ導かれたる明の春	北公園真つ赤なアーチと冬の海	混沌を極める句作冬鷗	春待つや神戸大橋くぐりけり	八の字に船別れ行き年新た	春隣ポータタワーのくびれかな	家政婦は炊初め市原悦子の忌	凍土なく人工島の浮き沈み	マフラーのあれやこれらが集ひけり	成人の日おつばい山が港島	水が水叩きたる音冬薔薇	引退を知らずにひびく冬の大鈴	「迷い鳥」貼り紙のピコにも初松籟	冬草のぶあつき場所の子供かな	高架下少数精鋭新年会	松過の海割つてゆく貨物船	

松 ……松本つふ賞 T ……Tsudio Studio賞

K ……KIITO賞(最多得票句)